



FÛ

EN

楓園

CONTENTS

- | | |
|------------------------------|-------------------|
| 1 — 特集 東洋英和を築いた宣教師 | 9 — 中高部 NEWS |
| 5 — この人に聞く 飯嶋敏子 | 11 — 大学 NEWS |
| 6 — 聖書の言葉・英和探訪 | 13 — 学院 NEWS |
| 7 — 東洋英和幼稚園 NEWS・かえで幼稚園 NEWS | 14 — 行事報告 9月～11月 |
| 8 — 小学部 NEWS | 15 — 英和の植物通信・お知らせ |



■ 125年の時を経て

2009年11月6日の創立記念日。125年の長い年月にわたり東洋英和女学院を支え続けてきたミス・カートメルにはじまる宣教師の先生方、そして神様を思い、感謝を捧げる日となりました。

東洋英和を築いた宣教師

『カナダ婦人宣教師物語』刊行

全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい。

マルコによる福音書 一六章一五節

今年度は学院創立一二五周年、さらに日本プロテスタント宣教一五〇周年にあたります。この記念すべき時に東洋英和女学院は『カナダ婦人宣教師物語』を刊行します。

物語は続く

編集委員
小学部部长 山本 香織

この本が生まれた意味

小学部の子どもたちは機会をとらえて教えられているので、一年生ときから創立者カートメル先生のお名前は知っています。さらに三年生で、「わたしたちの学校のあゆみ」と題し、学院の歴史を一通り学びます。その中でたとえば次のような質問を投げかけてみます。「カナダから日本へいらつしやるとき、カートメル先生はどういうお気持ちだったでしょう」。三年生の子どもたちなりに考えます。「日本人に神さまのことを伝えたい」「女の子のための学校をつくりたい」「日本人となかよくできるだろうか」「どんな食べ物だろうか」「言葉はどうなるのだろうか」等々。そのとき大切なのは、子どもたちがカートメル先生になつたつもりで考えることです。

東洋英和の在校生、卒業生、あるいは勤めている者たちは、どれほど宣教師の先生方のお名前を知っているでしょうか。ミス・カートメル、ミス・ハミルトン…、二名は挙げられるかもしれません。ミセス・クレイグ、あと三名以上のお名前が出てきたら上級者でしょうか。それでは名前だけでなくどういふ人物なのか、どのようなお仕事を

された方なのかは分かるでしょうか。

「百二十有余年の歴史の中でこれまでに年史は何冊も刊行されてきたが、建学の理念とそれを実践してきた学院の歴史の担い手たちのことは十分に伝えられてきてはいないのではないか」これは二〇〇七年七月にもたれた第一回編集委員会において、委員長である吾妻國年副院長先生が語られた第一声です。そして本書の刊行目的が端的に説明されている言葉だと思えます。

人物の名前を知っているだけ、年史が教える事項と年代を知っているだけでは分からないことがあります。三年生の子どもたちは、一人ひとりがカートメル先生になつたつもりで考えることから、いくらかでも先生の思いを理解しようとしてきました。本書刊行の意図は、宣教師の方々が命がけて伝えようとされたこと、その熱い思い、行動を、未来に伝えるために知ることであると思っています。

物語は続く

私たちはそれぞれ、個別の歴史に基づく小さな物語を持っています。また本やテレビや漫画などが、あふれんばかりの数の物語を提供しています。それら無数の小さな物語とまったく違う



『カナダ婦人宣教師物語』
東洋英和女学院『カナダ婦人宣教師物語』編集委員会編
2010年3月発行 B6版 フルカラー148ページ

カートメル 1843-1943
Martha Julia Ormell

主よ、あなたは私のすべてをご存じます。私が夢ではなく本当に御声を伺ったのなら、そして私をお用いくださるのなら、どうぞ私をお遣わしてください

折りの人

1882年9月下旬、カナダのハミルトン市にあるセントナリー教会には大勢の婦人達が詰めかけおわめいていました。中であた一人、ミス・マーサ・カートメルは深い祈りを捧げていました。この日は、カナダ婦人ミッションから日本に派遣される宣教師を決める総会の日であり、何年も前から練習も、「あなたが行きなさい」という神様の声を聞くに秘めた彼女は、自分がかかわりし人柄がどうか、今一度神様に聞いてあげたいと祈りながら祈っていました。日本が遠かに感じながらも、何となくここにいたいという気持ちで、1899年以前まで

キリスト教が禁じられていた布教活動はあそく困難であることは、彼女には問題ではありませんでした。校長職にあつて安定した地位を得ていることも念頭にはありません。それは自分が道を拓いてきた計画であり、すでに志願をし、もし断心であるならば、百ちにそのミッション(使命)を引き受ける覚悟はできていました。

ミス・カートメルとその奥かな折りの家は、臨心にも改めて尊敬と信頼の意を呼び起こし、ついに深淵の地で彼女がすくく立ち上がって祈りを受けました。異を喝え人は誰一人いませんでした。

こうして、東洋英和女学院の創立者

マーサ・J. カートメル

1843年12月14日カナダ・ケベック州トリニティ生まれ
トリニティ女子福音学校卒業
1865-1882年ハミルトン宣教師の教員および校長
1882年カナダ婦人ミッション校の日本宣教師宣教師として来日
1884年東洋英和女学院創立
1884-1895年東洋英和女学院初代校長
1897年結婚を申し請願
1898-1922年カナダ各地で伝道活動
1922年帰国
1924-1939年早稲田にて伝道活動
1939年帰国、伝道活動、晩年はハミルトン、後にトロント居住
1943年3月20日トロントにて没(99歳)

プロフィールにはじまり、たくさんの図版をまじえながら宣教師の先生方の印象深い逸話が語られています。物語形式で読みやすくなっています



次に「大いなる物語」があることを、私たちは信仰の学びの中から知っています。それは神様の救いの物語であって、私たちに生きる意味や帰るべきところを示し、人々を結びつける力を持っている物語です。

かつてイスラエルの人々は繰り返しその物語を聞き、物語に育てられ、やがて自分が語ってきました。東洋英和の学院標語「敬神奉仕」の元となった申命記の御言葉があります。「聞け、イスラエルよ。我らの神、主は唯一の主である。あなたは心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。」(六章四―五節)これに続くのはこの大切な約束を忘れないためにどうするかを示す教えです。「子供たちに繰り返し教え、家に座しているときも道を歩くときも、寝ているときも起きているときも、これを語り聞かせなさい。」(六章七節)神様の大きな物語は語られ続けなければなりません。そうすることで、神様が私たちに生きて働かれるのです。

この本の題名は「カナダ婦人宣教師物語」です。編集委員会において、どうすれば本の意図を短い言葉で明快に表せるか、また背表紙に書かれたときのイメージにいたるまで議論を重ねたことを覚えています。多くの案が出ましたが、私は「物語」という語にこだわっていたので、このタイトルに決まって満足しています。それは難しい歴史書ではなく、物語感覚で読める、手に取りやすい読み物である、ということを表しているからだけではありません。神様の大きな救いの物語のことを思っていたからです。お一人おひとりの宣教師の先生方の思想、生き方を通じて語られているのは、神様の大きな

なる物語です。そして大切なのは、その物語は過去のお話として「聞く」ものであるだけではないということです。神様の救いの歴史はまだ終わっていないのですから、大いなる物語は未来に向かって今も進んでいます。さらにその物語は、語られるときに生きて働くという力のあるものなので、聞く者自身がその物語の中に生かされ、育まれるのです。宣教師の先生方の「物語」を読むということは、すなわち神様の物語により、私たち自身が生かされることであると思います。そして「子供たちに繰り返し教え」、「これを語り聞かせなさい」と教えられているように、「物語」を語り続け、未来に伝える使命をいただくことでもあります。

ぜひ読んでください

東洋英和がこれからどういう歩みを続けていくか、どこを目指していくか、その指針を与えてくれるのは「建学の精神」ですが、それを皆が理解することは、実は難しいのではないのでしょうか。しかしこの「物語」はそのために大いに役立つと思います。私自身、東洋英和について知らなかったことがあまりに多かったのです。この小さな本ではまだまだ表しきれないのですが、それでも宣教師の先生方の生き様、お心に触れることができたと思います。そして神様の物語を未来に伝えなければならぬ使命に気づかせられ、思いを新たにしています。

どうぞこの本を手にとった方全員、最初から最後までお読みください。そうしたら未来の東洋英和の行き先がしっかりと定まるのではないのでしょうか。

(史料室より No.73より再録・抜粋)

『カナダ婦人宣教師物語』編集委員紹介

- 委員長 吾妻 國年
- 委員 島 創平 伊勢 紀美子 水谷 悟
山本 香織 谷川 祐子 松本 郁子
田原 綾子 酒井 ふみよ
- 顧問 五味 澄子 (前同窓会会長)
芝 恭子 (元大学教授)
朽木 久子 (元中高校教諭)
- 執筆協力 深町 正信
(クラーク学園理事長 青山学院名誉院長)
- 佐藤 順子 飯島 千穂子 石津 珠子
- 編集協力 新富 英雄 (前史料室委員会委員長)



顧問の方々：左より芝 恭子氏、五味澄子氏、朽木久子氏。宣教師の先生方から直接薫陶を受けられたお三方からは、多大なるご協力をいただきました

目次

<p>第1章 「楓の園」の誕生 東洋英和の礎を築いた宣教師</p> <p>カートメル ラージ ブラックモア マンロー クレイグ ハミルトン</p> <p>第2章 「道ある学び舎」 敬神奉仕に生きる 保育者養成の礎を築いた宣教師</p> <p>デウォルフ ドレーク ステーブルス レーマン キュックリヒ ローク スクルトン ハミルトン</p> <p>戦後さらなる発展の道を開いた宣教師</p> <p>コーテス サティ ダグラス マシューソン ジュティーン</p>	<p>第3章 論文とエッセー</p> <p>カナダ・メソジスト教会宣教の系譜から 深町 正信 宣教師が東洋英和の教育に残したもの —信仰と自立— 伊勢 紀美子 ロジャース先生とブラウン先生 —ともに過ごした日々— 佐藤 順子</p> <p>資料 東洋英和の歴史年表 おもな東洋英和女学院在任宣教師 おもな参考文献</p> <p>コラム</p> <p>カートメルの聖書が東洋英和に戻るまで 村岡花子と「赤毛のアン」 ブラックモアの「80の英文」 孤高の歌人 片山廣子 神の国の実現をめざして —ヴォーリスが建築を通じて東洋英和に伝えたこと— 野尻キャンパスサイトへの思い —ミス・ハミルトンと長野先生— 日本人々に勇気と信仰と希望を —バート博士とララ物質— 土を愛し、人を愛し、神を愛する —海難事故で落命したストーン牧師— 長野副院長 カナダへの感謝の旅</p>
--	--

宣教師の先生方の礎のもとに

創立一二五周年記念式挙

晴れわたる青空のもと、創立一二五周年記念式が二〇〇九年十一月六日、六本木の小学部校庭で行われました。

今回は中高部母の会の招待で、東洋英和に派遣された最後の宣教師ミス・ポール、そして学院創設者であるミス・カートメルのご親戚（ミス・カートメルのお兄様の曾孫）にあたるカーゴ夫妻をお迎えしました。

一八八四年にミス・カートメルが学校をお創りになってから、二〇〇六年にポール宣教師が帰国されるまでの長い間、カナダ・ミッシオンは東洋英和への宣教師派遣を続けてくださいました。宣教師の先生方のお働きは大きな



東洋英和幼稚園、小学部、中学部・高等部の園児・児童・生徒、教職員が一堂に会し、この記念すべき日を皆で祝いました



学院創設者ミス・カートメルのご親戚（ミス・カートメルのお兄様の曾孫）にあたるカーゴ夫妻



東洋英和最後の宣教師 ミス・ポール

実を結び、今日の学院の発展となりました。初代宣教師のカートメル先生につながるカーゴ夫妻と、最後の宣教師であるポール先生をお迎えできたことは、学院にとって非常に意義深いことでした。

宣教師の先生方への感謝とともに、その上にあつて大いなる計画のもと、学院を創り、今に至るまで支え続けてくださる神様への思いを新たにすることなりました。

追悼 宣教師 ミス・ロジャース



元中高部英語科教諭 奈良 みどり

現在生きる上での土台の一部になっていると感謝の言葉も口にされた。

英和時代の先生は中学生が英語の物語を読めるように、また演ずることができるように書き直したり、授業を楽しくする為にゲームを考えたりと教育に力を注がれた。中でも先生が一番大切にいらしたのは礼拝。生徒が理解できる英語で、生徒の心に届くように、時間をかけて準備をしていらした。先生が礼拝で心を込めて讃美歌を歌っていた声がまだ耳に残っている。心優しく、笑顔を絶やさない先生であつたが、先生の事を思い出す時、真つ先に浮かぶのは、先生の中心に貫かれていた揺るぐ事の無い信念、「神さまを信じ、神さまの御用の為に生きる」、その生き方である。先生の生き方は、先生を知る者の心に勇気と励ましを与え、また記憶に残るであらう。

ロジャース先生に最後にお会いしたのは二〇〇八年のクリスマスにエドモントンを訪ねた時だった。先生は身体が一回り小さくなり、見たり、聞いたり、歩くのも困難になっていらしたが、自立し、希望を持って生きていらした。ホームでの聖書研究会の事、教会で悩みを抱えている方の相談相手をしている事等の話から以前と変わらない先生の内に秘めた力が溢れ出ているのを感じた。

共通の友人であるカレンの家での先生を中心にした三人のクリスマスディナーは楽しかった。首をちよつと傾げ、ウインクをして、笑いながら「ネ、ソウデショー」と語尾を上げる先生の特徴もそのまま、その会食は五時間以上も続いた。英和の先生、卒業生の事を詳しく覚えていらして、その方々の思い出や今の様子についての質問が次から次へと出て、「友達大好き人間」の先生の一面は相変わらずであつた。日本での生活、日本で得た友との交わりの思い出と、今も続いている友情が、

ミス・ロジャース
Daphne Margot Rogers

- ・1930年5月27日 カナダ・ノバスコシア州ヤーマス生まれ
- ・1959年来日
- ・1960年より東洋英和女学院 中高部・小学部教諭
- ・1962年より静岡英和女学院教諭
- ・1965年より山梨英和学院教諭
- ・1976年より東洋英和女学院 中高部・小学部教諭
- ・1990年より東洋英和女学院 評議員、理事
- ・1994年帰国
- ・2009年10月24日 カナダ エドモントンにて逝去（79歳）

ボール先生 カーご夫妻 来校

カナダから来日されたボール先生とカーご夫妻は、創立125周年記念式のほかにも中高部の礼拝でお話しくださり、母の会主催の会合に出席されるなど、さまざまな学院行事にご参加くださいました。

史料室委員会では、ミセス・カーを囲み、ミス・カートメルについてのインタビューを行いました。長く小学校の先生をなさり、数年前まで全くカートメル先生のことをご存知なかったミセス・カーでしたが、あるイギリスの研究者の問い合わせをきっかけに初めてご先祖であるミス・カ

ートメルの偉業を知ります。そうしてミセス・カーの「マーサ・カートメル研究」がスタートし、一昨年の夏、中高部のカナダ学習旅行の一行に出会ったことから東洋英和との交流が始まり、今回の来校に至りました。

ミセス・カーからはミス・カートメルのおじい様にまでさかのぼる家系図をご提示いただき、今まであまり知られていなかったカナダ帰国後のカートメル先生の活動についてなど、非常に貴重なお話をうかがうことができました。



史料室委員会のメンバーがご夫妻にインタビュー。知られざるミス・カートメルの歴史が語られていきました



カーご夫妻からいただいた記念品



創立記念週間に特別展示されていたミス・カートメルの聖書もご覧になりました



東洋英和幼稚園も訪問。英語で応答する園児もいて驚きのご様子でした

*インタビューの詳細については4月発行予定の史料室だよりNo.74に掲載されます

東洋英和の原点がここに！すべての英和に連なる方々に読んでいただきたい物語です

『カナダ婦人宣教師物語』販売のお知らせ

東洋英和女学院では『カナダ婦人宣教師物語』を販売いたします。郵送ご希望の方は右記の郵便振替口座へお払い込みください。入金確認後に発送いたします。(発送開始は3月の刊行以降。入金確認から発送まで10日以上かかりますので、あらかじめご了承ください)

販売価格：1冊 1,000円(郵送希望の場合は1,200円)

*直接ご購入いただく場合には、六本木は各部事務室、大学は大学書店(紀伊國屋)にてお買い求めください

【払い込み先】

郵便振替口座 00120-3-685741 加入者名：学校法人東洋英和女学院
(2010年3月26日(金)～3月31日(水)は年度末決算の都合上、お払い込みはご遠慮ください)

金額 1冊につき1,200円(書籍代1,000円+送料200円)

通信欄に以下の項目をご記入ください

- ・『カナダ婦人宣教師物語』購入希望
- ・購入希望部数
- ・卒業生の方は卒業年・卒業の部・旧姓

東洋英和のルーツを訪ねる旅



一九五五年 小学部入学
一九七〇年 短期大学英文専攻科卒 飯嶋 敏子

いじまとしこ
総合旅行業務取扱管理者。カナダ観光局認定カナダスベシャルリスト。シエラトンホテルを皮切りに、三〇年以上旅行業務に従事。おもにロータリークラブ主催の企画旅行（世界大会参加、カンボジア地雷除去支援活動、バンゲンデシュに学校設立など）、カナダと日本の中学校の文化交流、企業視察旅行を取り扱う。二〇〇六年十一月（株）ディ&アイ ツアーズ設立、取締役就任、現在に至る。二〇〇七年より、同窓生を中心に、「英和カナダ旅行」を毎年企画・催行。

英和創立者ミス・カートメル
の教会

二〇〇六年十一月、トロントから市バスに乗り、ハミルトン市を目指す。一時間ほどのドライブは、晩秋の柔らかな日差しを受け、紅葉とそれを映しこむオンタリオ湖の穏やかな水面に飽くことがない。気楽な一人旅と時差ボケからふとまどろんだ一瞬、ハミルトン市の中心に着。あわててバスを降りると、目の前にミス・カートメルの母教会、センテナリー合同教会があった。

英和のルーツは……

この素朴な疑問が浮かんだのは、浦和のカソリックスクールの母体となった、ケベックの修道院を訪ねた時。「英和のルーツもカナダ。その教会を訪ねてみたい。」卒業以来三十年余、自分の仕事を確立するのに精いっぱい

いで、考えるゆとりがなかった。久しぶりに出席した学年会で、同級生の一人に相談。「卒業四〇周年記念にみんなで行かない？」どちらからともなく口をついた言葉が、ハミルトンへの一人旅のきっかけだった。

英和のルーツと『赤毛のアン』の舞台を訪ねて

翌二〇〇七年六月、第一回「英和カナダ旅行」を企画催行。ミス・カートメルの教会とお墓、ナイアガラ、『赤毛のアン』の故郷プリンスエドワード島を訪れた。同級生のみならず、先輩、また退職された先生方もご参加。このことで、年齢・立場を越えた交流が可能に。先輩からは、まさに生きた英和史を、旧先生方からは、視点の違う英和を学ぶ。会話は弾み、初めて出会ったのに、同窓とはこんなにも多くのものを共有しているのかと、あらためて認識した。

実際に日本とカナダの距離を体験し、参加者の誰しもが、往時の宣教師の信仰と勇氣に感動を覚える。

ハミルトン先生のお墓発見

第一回目の成功を自信に、二〇〇八年、再度旅行を企画。出発直前、朗報が届く。なんとセンテナリー合同教会の元牧師、有賀誠一氏が、英和中興の祖ミス・ハミルトンのお墓を発見。参加者には直接習った方もいる。さっそく墓参を旅程に追加。お墓は、教会から東に三〇キロ、静かな住宅地の一角にあった。一本の楓の木が、夏の日差し・冬の降雪からお墓を守るかのようには植えられている。墓前で先生が制定された校歌を歌うと、朝方の雨の名残りを湛えていた楓の葉から、ぼたぼたと滴が落ち、私達を濡らした。「きつと喜んでおられますよ。」同行のガイドが感慨深げに言う。

放蕩娘の恩返し

小学部から短期大学英文専攻科まで十五年を英和で過ごしたが、それは学校と自分とのギャップに悩んだ日々。卒業後は意識的に遠ざかってしまう。「私にとって英和とは？」それが企画の起点。だが多くの同窓生と旅行することで、こだわりは消える。私は英和に受け入れられていたのに、自分で垣根を作っていた。長い寄り道だったが、神様は全てを許し私を迎え、小さな仕事をお与えになった。旅行を通じて、さまざまな世代の同窓生と知り合うことは何にも代えがたい。また参加者すべてが、英和設立に寄せられた人々の情熱に思いをさせ、卒業生であることに喜びと感謝の気持ちを持たれる。そしてそれを出発点に、やがてご自身が一粒の種となることを。一人でも多くの方にこの感動をと、今後も旅行は毎年企画。皆様のご参加をお待ちしている。



グリーン・ケイブル博物館で。ここで暮らすモンゴメリの親戚の方と「赤毛のアン」のそっくりさんと一緒に

東洋英和女学院同窓会後援

第4回 2010年東洋英和カナダ旅行

東洋英和のルーツと『赤毛のアン』の

舞台を訪ねる旅

2010年6月26日（土）～7月2日（金）

【訪問先】

*センテナリー合同教会

*ミス・カートメルとミス・ハミルトンの墓地

*シャーロットタウンと『赤毛のアン』ゆかりの地 ほか

【申し込み・問い合わせ】

(株)ディ&アイ ツアーズ 担当：飯嶋

03-6276-8411 tokoi2@nifty.com

心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。

マルコによる福音書 十二章三〇節

隣人を自分のように愛しなさい。

マルコによる福音書 十二章三二節

この聖書の言葉は、いうまでもなく東洋英和の建学の精神「敬神奉仕」の根柢となる御言葉です。神を愛し、隣人を愛する…この順序が信仰の筋道を明確に示しています。

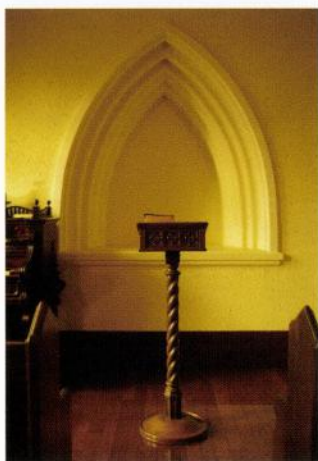
私が英和の中高生だった時の、当時の中高部では、毎週一回、始業前の二〇分、生徒と先生方との早天祈祷会が守られていました。私は毎週出席していたわけではないのですが、出席した時にはいつも数人の先生方と当時の院長であられた長野彌先生のお姿があり、続いて院長となられた石井次郎先生のお姿がありました。これは生徒にとりまして、忘れ得ぬ出来事であります。「敬神奉仕」は、まず、神を敬うこと、即ち、神の前に跪（ひざまず）くこと（＝礼拝）から始まる、ということを目の当たりにした出来事だったからです。

安行教会牧師

東洋英和女学院評議員

大学・小学部非常勤講師

田中 かおる



いつも中高生に美味しいパンを。YSDパン販売を訪ねました

二時間目の授業が終わった後の一五分休み、チャイムとともにたくさんの生徒が中高部一階の集会室に集まってきました。みんなのお目当てはYSDさんのパン販売です。

パンの委託販売は戦前からあり、戦後一九五四年に中高部同窓会「東光会」の役員とともに、銀座「オリピック」がパン販売を開始。その後「おじパン」の愛称で親しまれていた「相模屋」の中山新太郎さんが販売を担当しました。中山さんの息子さん、さらには渡辺さんを経て、現在のパン販売は「YSD(旧安田)」さんが担当、「パンおじ」の愛称で呼ばれています。

集会室でのパン販売は一五分休みとお昼休みですが、基本的には朝、生徒達が

パン用袋に注文を書きお金を入れてYSDさんに渡し、その注文に従って昼食時に各ホートルームにパンが届きます。

最近は店長の加藤さんのご尽力もあり、調理パンの種類も増え、カラ揚げやコロケ、そして大人気のピラフやカレーライスなどのごはんものも並んでいます。調理は、集会室の裏にあるプレハブで朝の七時頃から始まります。食中毒などが出ないよう細心の注意を払いながら心のこもった手作り食品の販売をしてくださっています。

生徒が大好きな「おふくろサンド」をいただいたところ、野菜たっぷり栄養バランス満点、愛情あふれるおいしいパンでした。



15分休みのパン販売は大賑わい。手際よく対応してくださいます



集会室裏にあるプレハブが調理場です



ピラフやカレーなど、ごはんもの人気があるそうです



パンの袋。注文されたパンが入れられていきます

手洗い・うがい

毎年幼稚園では、春と秋に各クラスで手洗い・うがいの方法の話をします。子どもたちは、手洗い・うがいで目に見えないばい菌を洗い流し、「さっぱりした良い気持ち」を実感します。特に今年度は、「新型インフルエンザ」の流行があり、真剣な眼差しで話を聞きました。中には、手洗い・うがいに興味を持ち、家庭でもその方法を話したと、伝える姿もあります。

これらの習慣が、自分の身体を守り、まわりの人の身体を守ることにつながるようにと、願っております。



1 話を聞きながら練習、ゴロゴロゴロゴロ5つ数える間、しっかりうがいをします



2 固形石鹸をこすり、泡をたくさん作って洗います



5 年長組では、ばい菌がつきやすい部分を、どのように洗えばよくとれるのかを考えます



4 洗面所にある絵を見て、やり方を思い出しながら毎日行います



3 「あ・い・う・え・お」と、言いながらするうがいも上手になりました

冬の風景より

冬の日の子どもたちは、落ち着いてひとつの遊びを遊びきっています。
春に向かう季節の中、他者と響き合つての生活が、ますますゆたかになっています。



なかまと共に一ドッジボールー

日だまりの中でくり返し楽しんだ庭でのページェント
—羊飼いになって—



卒業生や近隣の子どもたちが集まるの小学生クリスマス礼拝



伝え合って一投げごまー



ひとりでじっくりと一木工ー

みなさま、避難訓練という行事を覚えていらつしやいますか。

「緊急の放送が流れる」「机の下に隠れる」「近くから火事が発生する」「防災頭巾をかぶる」「お・か・し（おさない・かけない・しゃべらない）の約束を守って、校庭へ避難する」という様子を思い出される方が多いのではないのでしょうか。

左の写真は、先日行われた訓練の様子です。小学部では、各回で想定を変えており、今回は、全校が一堂に集まる講堂で地震が起き、ヘルメットをかぶって外に避難するという訓練を行いました。

校外に避難するときのために用意したヘルメットですが、かぶる機会をなかなか設けることができなかったため、講堂から避難する中で昨年からの取り扱おうようにしました。

このように小さなことではありますが、「子どもたちの安全を守るため」「子どもたちに安全を考えさせるため」に、工夫を少しずつ重ね続けています。この数年の間に、新しく始めたいいくつかの取り組みをご紹介します。



① 池袋防災館見学

社会科の授業で「くらしの安全」を学ぶ四年生を対象に行っています。「煙体験」「地震体験」「大災害の映画鑑賞」の三つの活動を通して、災害に対する理解を深めています。



② 徒歩帰宅訓練

災害が起き、交通機関が長時間断たれたときのために、今年度より徒歩で帰宅する訓練を始めました。低学年の子どもたちも歩ける距離ということで、「学校・自宅間の中で二キロメートル（三〇分ぐらい）以上歩いてみてください」という呼びかけから始めました。中には一時間以上歩き続け、「歩いても帰ることができると自信をもつことができた子どもたちもいました。また、普段は地下鉄のため見ることでできない街並みに、新鮮な思いを感じたという声を聞くこともできました。

実施後、保護者の皆様からは、それぞれに危険を感じた場所などを記載した報告書を提出していただきました。貴重なご意見をもとに、来年度もよりよい訓練を行っていききたいと思います。

③ 親子コース別集会

広い範囲から通学してくる小学部では、路線・方面別に一九のグループを編成しております。転居しないかぎり、六年間同じグループに所属するので、とても愛着のある集団となります。担当教員もなるべく変えないことを原則としていますので、大きな家族のような集まりです。

年に一回、コースの集まりに保護者の方にも参加していただくことで、地域ごとの細かい情報交換ができるようになりました。また、子どもたちにとっても、近くに住む保護者の方々の顔を覚える機会となっております。

④ 備えあれば憂いなし その1

「持ち運び式防災頭巾」
専科の教室にいくときの子どもたちの姿です。学習用具のほかに、防災頭巾を持ち歩きます。



⑤ 備えあれば憂いなし その2

「緊急地震速報システム」
テレビで見聞きすることのある緊急地震速報システムの装置を校舎に



取り付けています。強い揺れが予知された場合、緊急の放送が流れるように設定しています。

⑥ 備えあれば憂いなし その3

「緊急通報システム」
このようなボタンが校舎内に四〇以上あります。「不審者が侵入したとき」「病氣・怪我で、大人の手が多く必要なとき」などに使用します。



これら三つの備えは、まず使用することのないものですが、もしものときのために最善の対応ができるよう準備しています。私たちは常に安心感に満ち溢れた学校であり続けたいと願っています。
六本木という土地柄、心配事はつきませんが麻布警察署・消防署の方々、地域の方々にはいつも気にかけていただき、たいへん感謝しております。
これからも保護者の方々との連携を図り、子どもたちの安全を守っていきます。それと同時に、子どもたち一人ひとりが、自分の身を守る知恵をもつことができるように、日々の教育の中で工夫を続けてまいりたいと思っています。

建学の精神の明確化を目指して

中高部聖書科教諭 高橋 貞二郎

2009年11月6日、抜けるような青空のもと創立125周年記念式が小学部校庭で行われました。幼稚園児から高校生、そして六本木キャンパスで働く教職員が共に集まって行われた式典によって一人ひとりが学院標語である「敬神奉仕」の精神を改

めて心に刻むことができたのではないかと思います。ところで毎年この時期、中学部・高等部では式典のほか建学の精神を受け継ぎ、明確化していくために色々なことが行われていますので、今回はそれらをご紹介しますと思います。

中高部教職員祈祷会

創立記念日に教職員一同が集まって祈祷会を開きます。場所は1933年に建てられた旧校舎の雰囲気をそのまま残したメモリアルチャペルで行います。毎週金曜日にも教職員早天祈祷会が行われていますが、創立記念日の祈祷会は、いつもよりも長めに時間が取られて行われます。この祈祷会で、学院を建てられた主に感謝と讃美がささげられ、創立記念日を覚えて自由に祈りがささげられます。祈祷会では、祈祷する前に教職員による感話があるのですが、今年度は佐藤順子高等部部長がお話しくださしました。



中高部教職員祈祷会での佐藤順子高等部部長



中高部

創立記念特別週間の礼拝

10年前から、創立記念日を含む1週間を創立記念特別週間として、朝の礼拝に卒業生、旧教職員の方々をお招きしてお話をうかがっています。ご担当くださった方々は、「敬神奉仕」の精神や英和で知った聖書のみことばが社会に出てからいかに役に立つか、また人生を支え励ますものであるかなどをお話しくださっています。今年度は卒業生の大和由祈さん（2007年卒）、リンダ・ボール先生（カナダ合同教会から東洋英和女学院へ派遣された最後の宣教師）、キャッシー・カーさん（創立者カートメル先生のお兄様のひ孫にあたる方）からお話をうかがうことができました。



卒業生の大和由祈さんによるお話



カーご夫妻



リンダ・ボール先生



キャッシー・カーさん

「傘が私たちが雨から守ってくれるように、神様の愛が私たちが様々な困難から守ってくれる」と語るボール先生

はじめまして。学生企画の大学案内（学生ブック）編集長の佐藤です。今回、楓園で学生ブックについて紹介する機会を頂けたことをとても光栄に思います。

学生ブックは三年前にスタートした企画です。以前は大学側が制作する大学案内だけでしたが、学生の視点を盛り込んだ新しいパンフレットを作ろうというねらいがありました。

多くの私立大学のパンフレットは、キャンパスの施設や教授陣、学部学科の特色の掲載にページを割いています。また、数人の学生がその大学の顔として載っていることはよくありますが、学生の人選や全体の構成は、大学側が考えたものがほとんどです。読み手の高校生は、そこに載っている写真や文章をひとつの手がかりとして、自分の大学生活を思い描いているのです。

確かに、大学の持っているカラーを全面的にアピールすることは大切な要素だと言えますが、それだけでは高校生には届きません。

英和には、アルバイトやボランティア、留学などの経験をする事によって日々挑戦し、己を磨いている学生がいます。高校生は、大学のこと以上にその学生達について知りたいと思っています。

オープンキャンパスで高校生がパンフレットを手にしている姿を目にする機会もあり、私たち英和



初の全体ミーティングで慎重に言葉を選びながら企画内容を伝える筆者



ある日の取材風景。頑張っている学生に直接話を聞けることも取材の醍醐味



2009年度・2010年度入試向け学生ブック

生の思いが高校生に伝わっていることを肌で感じています。それだけではありません。二〇〇九年度の学生ブックを読んで東洋英和を志し、現在はスタッフに加わって一緒に頑張っている一年生もいます。三冊目がお目見えするのは今年の五月になりますが、どんな学生ブックができればいいのか皆さんも一緒に楽しみにして下さいね。

世界の人たちに向けてー大学ホームページー

国際社会学部3年 酒田 あかり

現在、10名の学生で大学のホームページの制作や更新のお手伝いを行っています。主にオープンキャンパスなどの学内イベントのお知らせ、留学をした学生たちのレポートなどの掲載をしています。文章や写真を掲載する際は、文字の大きさや色、写真の配置などを工夫し、見やすいホームページの制作を心がけています。メンバーは、それぞれの時間割に合わせて、授業が入っていない時間や昼休み、放課後などに活動しています。週に1回活動している学生もいれば、週に4回ほど活動している学生もいます。普段は個人で活動しているため、月に2回行われるミーティングは意見を交換できる貴重な場です。お昼ご飯を持ち寄り、和やかな雰囲気の中で意見交換をしています。自分のペースで無理なく活動できるだけでなく、ホームページ制作に関する技術的なことも学ぶことができます。

一見、難しそうなホームページ制作ですが、初心者でも1カ月ほどで作業に慣れ、活動することができます。依頼主と

メールで連絡を取り合いながらページを制作し、時には、何度も修正を重ねることもあります。しかし、時間をかけて制作したものが掲載された時には、大きなやりがいを感じます。今は、3年生が中心となって活動していますが、4月以降は新2年生や、新3年生にも参加してもらい、より活発に活動していきたいと考えています。少し大げさかもしれませんが、世界の人たちに向けて大学の情報を発信しているという良い緊張感と責任感を持ちながら、これからも楽しく活動していきたいと思っています。



作業を行っているコンピュータサロンにて（前列中央が筆者）

「学生支援 GP」として新しい就職支援事業が始まりました

人間科学部教授 川崎 末美

本学が立案した就職支援プログラムが、2009年度の「学生支援 GP (Good Practice)」として文科省に採択され、国の財政支援を受けながら新しい就職支援事業を実施しています。昨年の9月から2ヵ年半という期限付きですが、学生支援の新しい方法と可能性を探るのに、大きな意味と効果を持つものです。事業内容は、以下の二つの支援から成っています。

支援その1 キャリアの早期意識づけ

一つの柱は、学生が入学後の早い段階から将来の生き方を考え、それに向けて大学4年間を計画的に過ごすことができるように支援することです。これは、卒業生によるキャリア体験講演会の開催や、学生生活の目標・実践過程・成果を記録するポートフォリオ (Four Years Book) の提供と活用指導、およびそれに基づくアドバイスを通して行うものです。

昨年の10月17日 (土) と24日 (土) の両日、総勢19名 (延べ24名) の卒業生にご協力頂き、1、2年生を対象にした卒業生講演会を行いました。学科や専攻を考慮して各学年を3クラスに分け、各クラスとも4名の卒業生に登壇して頂きました。社会で活躍している他大学出身の有名女性ではなく、自分の大学の先輩が語る仕事上の体験や後輩へのアドバイスは、よりリアルで共感するところも多いのでしょうか、就職活動の開始までに今しばらく時間のある1、2年生にも大いに参考になり、励みにもなったようです。

また、この講演会は、在校生が先輩から学ぶだけでなく、卒業生同士が互いに刺激し合う場にもなったようです。これは想定外のうれしい副産物でした。



講演中の卒業生
池田ゆかさん (高等部・大学卒)



講演を聴く学生たち

支援その2 基礎学力の強化

就職支援のもう一つの柱は、基礎学力の強化です。これが目指しているのは、学生たちが日本語表現力を鍛えて入社試験のエントリーシートを的確に書けるようになること、数学や時事問題に関する力をつけて筆記試験を確実にクリアできること、英語の基礎を固めて英語力を生かした仕事にも就けるようになることなどです。

基礎学力は、大学での学びの基盤でもありますから、その強化は就職支援だけでなく、学びの支援にもなります。

基礎学力強化の方法としては、担当教科の先生方の手によるオリジナルの自習用演習問題とテキストの提供、お茶を飲みながら楽しく自習ができる「スタディカフェ」の設置、さらに、「スタディコンサルタント」による個別指導を行っています。演習問題をスタディカフェに置いておき、ここにスタディコンサルタントの先生方が待機していて、学生の質問や相談にいつでも応じて頂くというかたちです。

このスタディコンサルタントとして、中高部をご退職になった中村攻先生と長友玲子先生が数学を、中高部ご出身の平島順子さんと池田由美子さんが英語を、柴田智子さんが英語と日本語表現を担当して下さっています。本事業の計画段階では、中高部とのこうした連携までは考えていませんでしたが、佐藤順子高等部部长のご尽力によってこの体制が実現しました。



スタディカフェでの指導風景 (数学担当の中村攻先生)

同窓会や学院の絆に感謝

卒業生のキャリア講演会でも、キャリアコンサルタントによる基礎学力強化体制でも、同窓生や東洋英和女学院の絆の強さとありがたさを実感しました。

この事業が就職支援にとどまらず、学生たちの大学での学びと成長や、東洋英和女学院の発展にもつながることを祈るとともに、2ヵ年半という国からの財政支援の期限を越えて、東洋英和の教育方式として長く続いていくことを願っています。

第6回 神奈川産学チャレンジプログラム最優秀賞受賞

国際社会学部 准教授 長谷川かおり

この度、神奈川経済同友会主催の産学チャレンジプログラムにおいて、本学学生のグループが入賞をしました。このプログラムは、上記経済同友会に所属する企業が、大学生・大学院生に対してリサーチの課題を出し、半年ほどかけて学生が企業への取材・調査も行いながら研究レポートを提出し、その内容を競うコンテストです。本学国際社会学部国際社会学科社会システム専攻の科目「マネジメント・インターンシップ」(筆者担当)では、授業全体でこのプログラムに参加しており、5チームがさまざまな課題に応募しました。この授業科目は、大学での学びと社会との接点を学生に持たせようと、講義のなかで企業の出した課題の意味を理解できる講義と研究方法の指導を行い、授業時間外に学生と教員で協力して、40時間以上の会議や研究時間を設けて、レポート作成にあたりました。

どのチームも力作を作成し、高い評価を得ました。とくに、2年生の齋藤千尋さんが代表の5名(齋藤千尋、加藤美緒、田中理佳子、齊藤静香、高見由希子)で、野村証券株式会社の出した課題である「証券投資の普及プログラム(小・中・高校生向け学習講座の提案)」という課題に挑戦したチームは、180チーム中15チームの最優秀賞受賞チームとなり、そのなかでもさらに4チームのプレゼンテーション校に選ばれ、授賞式では、多

くの参加者を前にモデル・プレゼンテーションを行いました。女子大でも異色の社会科学の教養と専門性を教育の柱としてきた国際社会学部の教育全体の成果でもあり、何より学生たちの真摯な努力と成長ぶりは、すばらしいものでした。

末尾ではございますが、神奈川経済同友会様、ご協力いただいた大学の学生支援課の皆様、諸先生方に心より感謝申し上げます。



12月16日(水)神奈川県民ホールで行われた表彰式にて、テーマを出された野村証券株式会社の方と一緒に記念撮影

卒業を前に一在生紹介—

ローズクイーンから群馬銀行へ

私は現在、生まれ育った群馬県前橋市でローズクイーンという観光特別大使としてPR活動をしています。大学進学を機に都会へ出てから、改めて魅力ある故郷に何か恩返し出来ないかと考えました。ローズクイーンは、前橋市の花である薔薇にふさわしく明るく気品ある女性像が求められます。仕事中は360度どこから見られても恥ずかしくないよう努めていますが、まだまだ人前に立つことの難しさを噛み締める毎日です。お会い

金澤 安里 (人間科学部4年)



する全ての方に感謝の気持ちを持って接すると「ありがとう」という言葉が何倍にも嬉しく感じられ、自分の行動一つで相手の心を豊かに出来るということを学びました。あとわずか大学生活が終わり、前橋の群馬銀行で社会人生活に入ります。ローズクイーンを通して学んだ常に相手を思う心を大切に過ごしたいと思います。

訃報 —心より哀悼の意を表します—

三戸 留五郎氏	元高等部・小学部職員	2009年3月15日
山田 陽子氏	元東洋英和幼稚園教諭	2009年8月10日
霜山 徳爾氏	元大学教授	2009年10月7日
ミス・ダフネ・ロジャース	宣教師 元中高等部・小学部教諭	
	元理事・評議員	2009年10月24日
尹 男淑(ユン・ナンスク)氏	大学非常勤講師	2009年11月27日
阿部 光子氏	元小学部教諭	2009年11月28日
山田 順子氏	元かえで幼稚園教諭	2009年12月17日

宣教師墓前礼拝

二〇〇九年十一月一日、青山霊園のカナダ合同教会墓地で毎年恒例の礼拝を持ちました。お説教は山本香織小学部部長でした。以前、荒れ果てていたこの墓地に心を痛め、ご自身の宣教師生活三〇周年記念のお祝い金を捧げ、整備を進められたのが先日お亡くなりになったミス・ロジャースでした。先生のお働きに深く感謝いたします。



東洋英和
幼稚園

● 祖父母の会 9月30日(水)

一四九名の祖父母の方々をお迎えし、五歳児が、シヨ、休憩、ゲームのコーナーを開きました。お母様による布絵本の公演、手作りお菓子やハンドベル演奏も楽しんでいただきました。

● 父と遊ぶ日 10月10日(土)

三・四歳児が、お父様と幼稚園で三つのコーナー(大工、ろうそく作り、ウォークラリー)から、好きなコーナーを選び、楽しい時を過ごしました。感謝の気持ちを込めて作ったプレゼントもお渡ししました。

● 創立記念日礼拝 11月6日(金)

小学部校庭にて、創立二五周年記念式に子どもたちが参加しました。

● りんご園遠足 11月13日(金)

五歳児が長野県上田市へ行きました。



父と遊ぶ日

大学付属
かえて
幼稚園

● 五歳児追分キャンプ 9月2日(水)～4日(金)

恵まれた天候の中、地図を持つてのオリエンテーリングを楽しみました。

● 四・五歳児ファミリーデー 10月17日(土)

大学キャンパスにてご家族の方と共にからだをいっぱい動かして過ごしました。

● 三歳児オーブンデー 10月19日(月)

親子でアドヴェントカレンダー作りなどをしました。

● 創立記念日礼拝・音楽会 11月6日(金)

東洋英和の枝の一つとして、主イエス様につながって歩むことを覚えて礼拝しました。礼拝後には、コーラスサークルのお母様方による音楽会を楽しみました。



創立記念日音楽会でお母様方の歌声を楽しむ子どもたち

小学部

● 六年生修学旅行 9月15日(火)～18日(金)

北海道の道東をめぐり、環境や自然、アイヌの文化について学びました。

● 追悼記念日礼拝 10月1日(木)

● 球技会週 10月13日(火)～10月16日(金)

二・三年生はドッジボールと大縄、四年生はポトポトボール、五・六年生はバスケットボールを行いました。どの試合も白熱し、大いに盛り上がりました。

● 小羊会総会 10月26日(月)

各委員会の委員長を中心に、よい学校生活を送るための方法を、四年生以上の全児童が集まって話し合います。

● 入学考査 11月2日(月)

● 創立記念日礼拝 11月6日(金)



六年生修学旅行 一川歩き

中高部

● 体育祭 10月10日(土)

大学のグラウンドで、綱引き、騎馬戦、リレー等クラス対抗の熱戦が繰り上げられました。今年の優勝は青の5組でした。

● 楓祭 10月23日(金)～24日(土)

テーマは「Sympathy」(共感・共鳴)でした。今年は新型インフルエンザ対策のため、残念ながら一般公開が中止となりました。家族に見守られながら、落ち着いた雰囲気で行われました。

● 創立記念日礼拝 11月6日(金)

創立二五周年のため、小学部の校庭で幼稚園から高等部まで一緒に礼拝を守りました。

● 中学部球技会 11月20日(金)

中1の部は4組、中2・3の部は中3の1が総合優勝しました。



楓祭 音楽部公演「MAMMA MIA！」

大学
大学院

(大学)

● オープンキャンパス 9月20日(日)、10月3日(土)、11月21日(土)

● 公募制推薦入試、同窓会子女枠特別推薦入試、編入試験

● かえて祭 10月31日(土)～11月1日(日)

テーマはSENSE。キラリと輝く英和生を来場者にも探していただくという思いだそうです。

● 保護者と教職員の懇談会 11月1日(日)

● 指定校推薦入試 11月7日(土)

(大学院)

(人間科学研究科のみ)

● 大学院授業見学週間 11月16日(月)～21日(土)

● 入試説明・相談会 11月21日(土)



かえて祭 一カルテットホールにおける若さあふれる演奏風景

英和の植物通信

～目を近づければ楽しさ無限～ No.19

絵・文・写真：中池 敏之
(大学非常勤講師：博物館概論等担当)



リョウブ (横浜キャンパス)

リョウブ (令法)

冬の季節には、葉を落とした木々(落葉樹)も多く、そのため林の中が明るくなり、樹皮を観察し、楽しむには最適な時期である。

横浜キャンパスの中でひととき目に付く樹皮は、鹿の子斑の文様を持ったリョウブである。この文様は、樹皮が不規則に剥げ落ちた結果現れたもので、色や形が色々である。

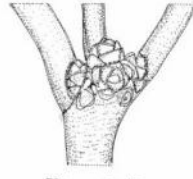
子どもも大人も林の中で、色々な木々の肌を手で触ってその感触を確かめ、また、樹皮の文様から現実の生物や空想の生物などを想像するのは、冬の最高に楽しいひと時である。



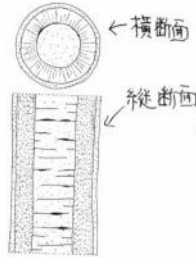
ハリギリ
幹に紙を当てクレヨンで
こすり、文様を写し取る。
なかなか楽しい。



ヒトツバタゴ
鱈鱗片葉は寒い風から
芽をしっかりと防ぐ。
芽をいかりと防ぐ。



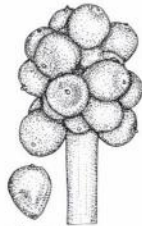
モッコク
芽が幾つも重なる。
不規則のよう規則あり。



ユリノキ
枝の縦断面には
環のような薄膜層
あり。



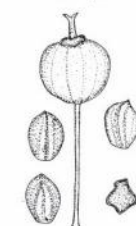
フエノハナワラビ
かつては冬の時期に
この葉を食べたという。



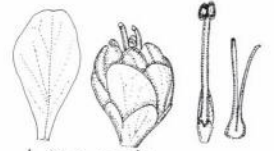
オモト
冬の本木床には
どろりとした
真赤な実。



マンリョウ
土面近くには真赤な
実、表面の黒点があ
くアクセント。



ハリギリ
実は高い所に
なるので、冬に
落ちた実を採す。



トサミズキ
春一番、うめと共に
黄色の花が咲く。

一般公開行事のご案内

東洋英和女学院大学
オーケストラ部コンサート

- 日時 2月21日(日)
開場 13:30 開演 14:00
- 会場 磯子公会堂
- 入場無料

第14回

中高部 器楽科・ピアノ科発表会

- 日時 3月13日(土)
13:00~16:00
- 会場 新マーガレット・クレイグ記念講堂
- 出演 中高部器楽科・ピアノ科生徒

東洋英和女学院学院報 楓園 第59号

発行日：2010年2月9日
編集：広報委員会
発行：学校法人 東洋英和女学院
東京都港区六本木5-14-40
TEL 03-3583-3325
メールアドレス
koho@toyoeiwa.ac.jp
ホームページアドレス
http://www.toyoeiwa.ac.jp



お茶の会

1F集会室で、同窓会特製のフルーツケーキを頂き、卒業生の手作り製品が並ぶミニバザーは大人気、おしゃべりを楽しみ校歌を歌って閉会。

ソロ・コンサート

独唱：飯島千雅子教授 伴奏：深井李々子先生
美しいデュオから静かなクリスマスの喜びが心に深く伝わりました。

皆で歌いましょう

指導指揮：飯島千雅子教授 合唱：フェルゲルコール
一同で讃美歌、輪唱、打楽器入りの歌を楽しみ、ハレルヤコーラスを高らかに歌いました。



*2009年12月5日 新マーガレット・クレイグ記念講堂にて

懇親会では役員と先生方が打ち解けて交流することができました。

二〇〇九年度「後援会役員懇談会」報告
二〇〇九年度後援会役員懇談会が昨年一〇月一六日、ANAインターコンチネンタルホテル東京にて開催されました。出席者数は、後援会役員が六八名、学院からは各部の代表者をはじめ三二名の先生方がご参加くださいました。
各部ごとに八つの分科会に分かれ、先生方と教育の現状などについて意見交換し、活発な議論が行われました。その後、また一堂に会し、分科会の報告が行われ、各部の現状をお互い理解することができました。



同窓会クリスマス礼拝報告



礼拝

説教：高橋克樹牧師
(大学院2005年修了)
奏楽：菊池泰子
(高等部1971年卒)
厳粛な礼拝を大切に守る同窓会クリスマスです。

同窓会より

後援会より